

事業所における自己評価結果(公表)

別紙3

公表: 令和 3年 2月22日

事業所: 児童発達支援 かばくんのいえ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		ひとり一人の支援内容が充実できるペースを確保している。	子どもが遊びたいと思える環境づくりに努める。
	② 職員の配置数は適切である	7		子どもの発達に合わせた配置になっており、内容も充実出来るように心掛けている。ゆったりと子どもに関われるようにしている。	今後も子どもたちが安心できる職員配置に努める。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		手洗い場・トイレについては子ども仕様になっていないので、踏み台や子ども用便座を利用、必ず職員が介助し安全面に気を付けている。	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		静と動の遊びができるように区切られており、必要に応じて個別の空間を確保している。	
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7			感じたこと思ったこと等気軽に話せる職員関係を大切にしている。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		実施している。	療育の向上の一環として、今後も続けていく。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		実施している。	療育向上の一つとして今後も実施していく。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		7		今後の課題とする。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		定期的に講師を招聘し研修を行っている。 外部研修は参加した職員は職員会議で報告をし共有をしている。	年3回講師を招聘し研修を実施。今後も実施していく。
	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		ひとり一人のこどもの状況を把握し、家庭を含めた支援内容となるよう計画作成をしている	今後もその子に即した計画を作成するように努める。保護者の思いにもしっかりと寄り添う。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		使用している	
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7		そのこの発達と生活環境を把握し、何が必要であるかを明確にした上で、支援内容を設定している	その子に適したより具体的でわかりよい計画になるよう研鑽に努める。

適切な支援の提供	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		個々の支援計画を基に日々の療育にあたり、職員間の連携を大切にしている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		担当職員が立案し、その後全職員及び施設長が点検している。	毎朝の会議などで、職員皆で確認し共有をしている。今後も続けていく。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		活動内容は常に見直し、何が必要なのかを見極めて療育にあっている。 グループ活動は月案を作成し、職員会議で確認し固定化しないようにしている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7		実施している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		支援内容の確認の他に、アレルギー等身体的な配慮の確認を毎朝行っている。	子どもたちが楽しく過ごせるように、今後も職員間の役割分担、支援の内容を明確にしていく。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		状況によりその日に振り返りが難しい時は、次の日の朝会議等で確認、共有するようにしている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		その都度実施。改善すべき事柄は朝の会議で報告をし確認・共有をしている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7		実施	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	7		児童発達管理責任者が主に参加。	主任職員にも積極的に参加してもらおうようにしていく。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7		主に児童発達支援管理責任者が行っている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		運動会、生活発表会を見学したり、必要に応じて園訪問や学校での相談、放課後等デイサービス等と連携を持っている。 年1回、かばくんのいえに並行通園している保育園や幼稚園の先生を対象とした研修会を実施している。	年1回実施している、並行通園をしている保育園や幼稚園の先生を対象とした研修会を今後も継続する。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		図っている	今後も必要により保護者の理解(同意)の基実施する。

保護者との連携	⑳	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7		研修を受けている。	
	㉑	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			並行通園をしているので日常的に関わりが持てている。	
	㉒	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	7		参加をしている	
	㉓	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		送迎時にこどもの状況を伝えたり、家庭の様子を聞くことで、共通理解が出来るようにしている。	更に気軽に何でも相談ができる環境を作っていく。
	㉔	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7		必要な方には実施している。	保護者全般にわたり、それぞれの家庭に見合ったプログラムを作成し実施していく事に努める。
保護者への説明責任等	㉕	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		入所児に説明をし、入所後も必要に応じて対応をするようにしている	継続の保護者の方には、 ・変わったところ ・新しく加えたところ ・再度確認してほしい箇所を説明
	㉖	児童発達支援ラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7		殆ど出来ている。	今後も子どもに則した丁寧な支援計画に努め、保護者に納得が得られるように努める。
	㉗	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		最低年3回実施 その他に日は設定していないが、随時対応している 小児精神科医師に毎月1回来ていただき保護者相談を実施している。	引き続き気軽に相談でき、適切な助言が出来るように心掛ける。
	㉘	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7		一昨年度から保護者交流会を実施している。トハウスをお借りし実施している。参加者は少ないがOBの保護者も見え貴重なアドバイスを受けている。	今年度はコロナ感染対策のために実施しなかった。来年度は3階にお部屋を借り、気軽に保護者同士が集えるようにしていく。
	㉙	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		相談を受けた時は随時対応できるようにしている。	今後も同様。
	㉚	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		定期的に便りを発行。また、それ以外に必要なに応じて随時発行している。	読んでいない保護者の方があるので、読みやすくする工夫が必要。子育ての参考になる記事を似せていく。
	㉛	個人情報の取扱いに十分注意している	7		個人の文章作成等は職場内で行い、やむを得ず持ち帰って行う場合は、個人が特定できないようにしている。個人の計画書などの書類は常に施錠をしている。	今後も十分注意をすること。

	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		長期欠席の子どもさんたちの保護者には電話を掛けたり、月1回発行している便りなどを郵送している。必要により家庭訪問を実施している。送迎時などに療育での様子や伝え、又、保護者の思い等を受け止めるようにしている。気軽に児童発達管理責任者と話ができるようにしている。	今後もより一層保護者との意思疎通や情報伝達に努めていく。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7		講演会などを実施。事業内容などの理解を深めてもらい、地域に根ざした施設を目指している。	今後も講演会などを続けていく中で、障がいについて、少しでも理解していただける機会を設けていく。
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7		重要事項説明で保護者の方に伝えている。地震・火災訓練は年5回実施。	保護者の方々にもう少し詳しく周知する必要あり。
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		年5回実施	自然災害が多く発生しているので、2か月には1回訓練を実施していく予定である。
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7		入所時の面接で聞き取りをし、療育初日に再度確認をしている。毎回登所時健康状態を保護者の方に確認し、療育中子どもさんの状況を丁寧に見るようにしている。	今後もこどもの状況を確認し必要な配慮をしながら、気持ちよく療育に参加できるように心掛けていく。
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		保護者に聞き取りをして対応している	
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		小さな事故が大きな事故にならないように、ヒヤリハットの活用を行っている。職員みんなで共有するために、朝の会議などで報告をし、問題点等を確認し共有をしている。	”ヒヤッ!”と感じたことは今後もヒヤリハットに記入し、職員全員で共有し事前に事故を防ぐように心掛ける。
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		年1回講師を招聘し実施している。	
	④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している				今までの療育の中で、身体拘束を必要とする子どもさんはいない。身体拘束はしない環境を作るようにする

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。